

令和 7 年度

網走市における景気動向調査

<第 I 四半期>

報 告 書

網 走 商 工 会 議 所

目 次

第1章 調査要領

1-1	調査時点及び調査対象期間	1
1-2	調査対象	1
1-3	調査方法	1
1-4	回収状況	1

第2章 概況

2-1	全体の動き	2
2-2	業種別の動き	3
1)	建設業	3
2)	製造業	4
3)	卸売業	4
4)	小売業	5
5)	サービス業	5

第3章 業種別設備投資の状況

6

第4章 業種別経営上の問題点

7

第5章 業界の景気動向等その他のご意見

8

第1章 調査要領

1-1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点：令和7年4月1日（火）～令和7年6月30日（月）
- (2) 調査対象期間：令和7年4月～6月期実施、及び令和7年7月～9月見通し

1-2. 調査対象

網走市に所在する建設業（28件）、製造業（22件）、卸売業（19件）、小売業（39件）、サービス業（43件）の151社を調査対象とした。

1-3. 調査方法

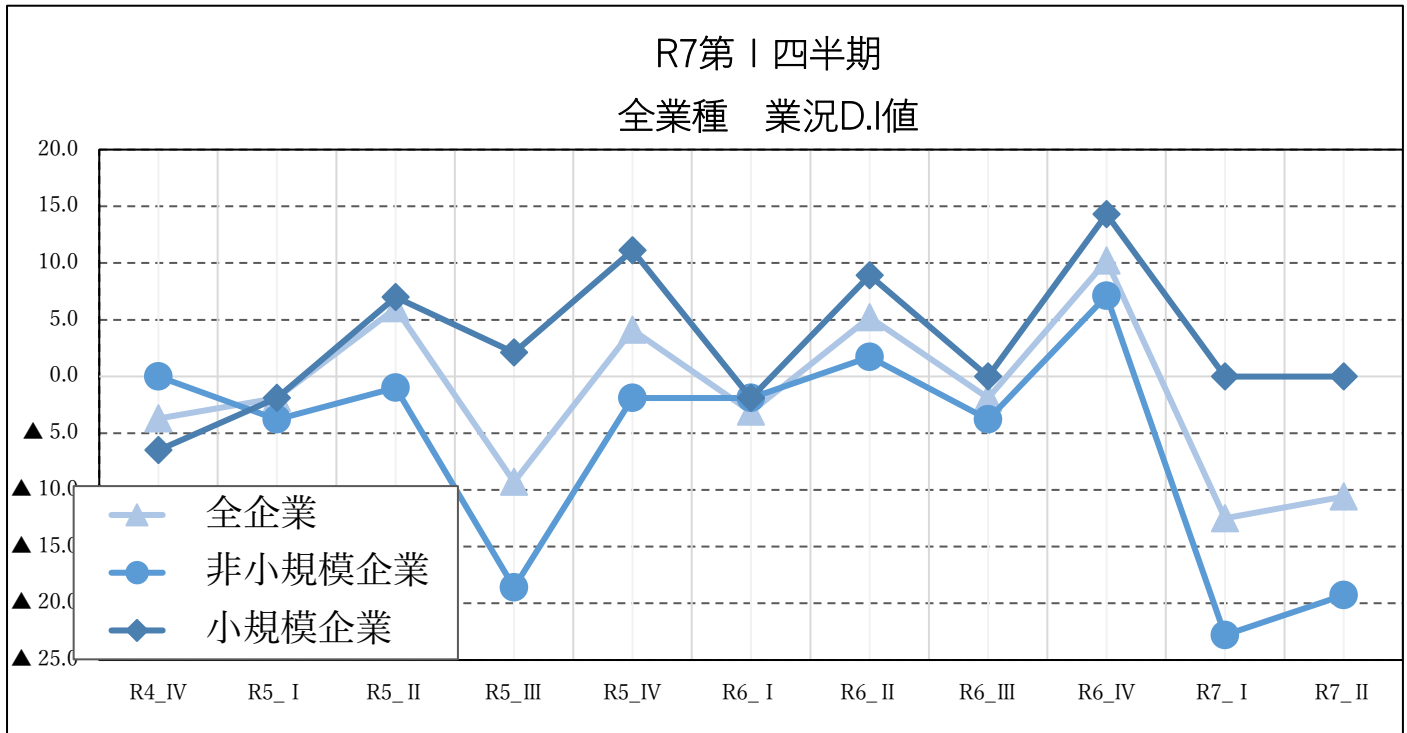
調査対象に案内文と調査票を送付し、FAXもしくは同封の返信用封筒による郵送、インターネット（Google フォーム）による返信にて回答を受ける。

1-4. 回収状況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
建 設 業	28件	24 件（非小規模企業： 12 件、小規模企業 12 件）	85.7 %
製 造 業	22件	18 件（非小規模企業： 8 件、小規模企業 10 件）	81.8 %
卸 売 業	19件	13 件（非小規模企業： 10 件、小規模企業 3 件）	68.4 %
小 売 業	39件	25 件（非小規模企業： 14 件、小規模企業 11 件）	64.1 %
サービス業	43件	24 件（非小規模企業： 13 件、小規模企業 11 件）	55.8 %
合 計	151件	104 件	68.9 %

第2章 概況

2-1. 全体の動向



令和7年度第Ⅰ四半期（4月～6月）の全企業業況は、前年同期に比べ、「好転企業」16.3%、「悪化企業」28.8%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は $\Delta 12.5$ となり、前回（D.I.値 10.2）に比べ、その差は22.7ポイント悪化傾向となっています。

非小規模企業の業況は前年同期に比べ、「好転企業」12.3%、「悪化企業」35.1%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は $\Delta 22.8$ となり、前回（D.I.値 7.2）に比べ、その差は30.0ポイント悪化傾向となっています。

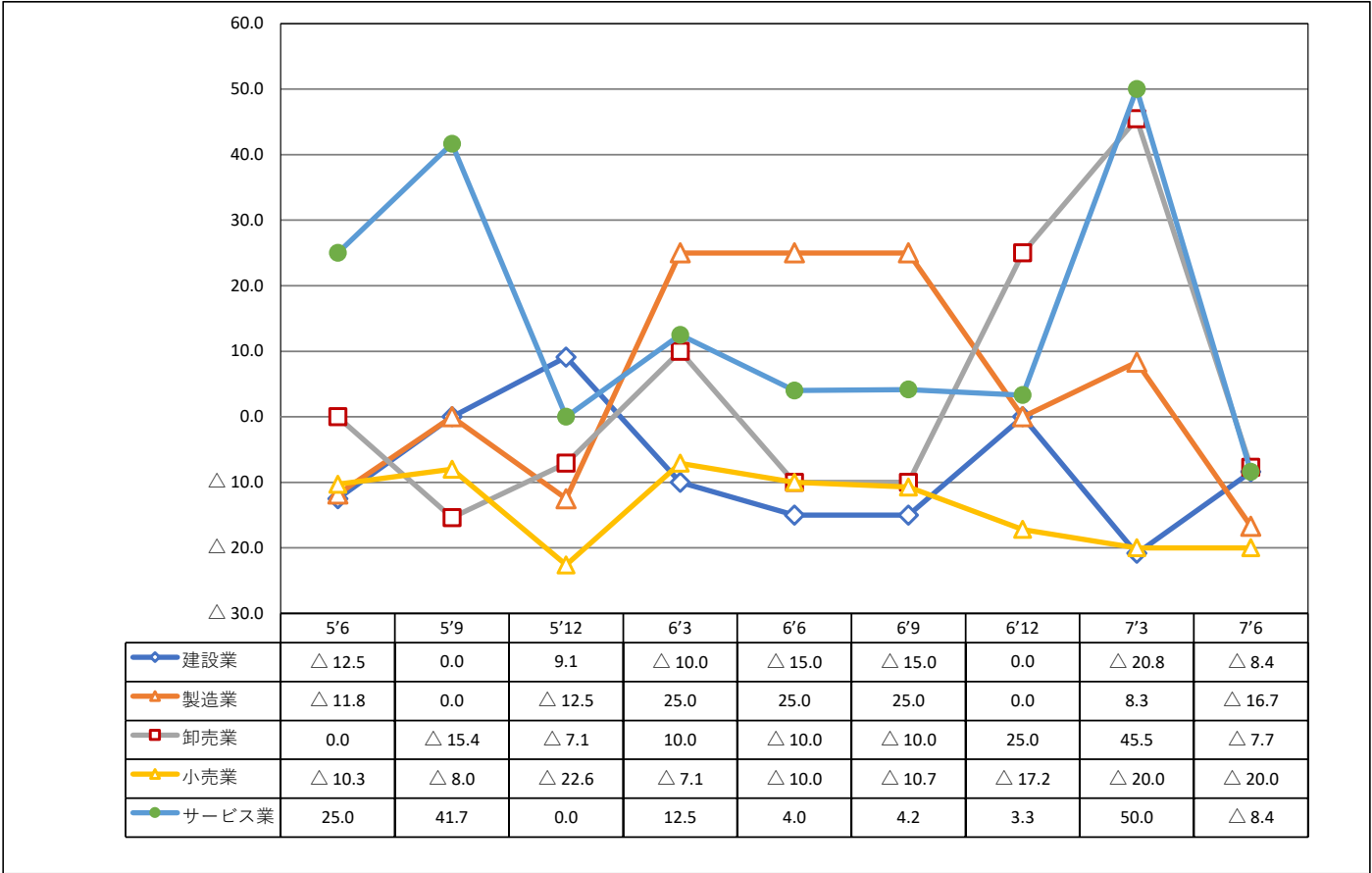
小規模企業の業況は前年同期に比べ、「好転企業」21.3%、「悪化企業」21.3%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は 0.0 となり、前回（D.I.値 14.3）に比べ、その差は14.3ポイント悪化傾向となっています。

次期（7月～9月）見通しとして全企業の業況は、今期に比べ「好転企業」14.4%、「悪化企業」25.0%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は $\Delta 10.6$ となり、今期（D.I.値 $\Delta 12.5$ ）に比べ、その差は1.9ポイント好転傾向となっています。

非小規模企業の次期業況見通しは、今期に比べ「好転企業」8.8%、「悪化企業」28.1%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は $\Delta 19.3$ となり、今期（D.I.値 $\Delta 22.8$ ）に比べ、その差は3.5ポイント好転傾向となっています。

小規模企業の次期業況見通しは、今期に比べ「好転企業」21.3%、「悪化企業」21.3%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は 0 となり、今期（D.I.値 0 ）と比べ、 ± 0 となっております。

2-2. 業種別の動向



1) 建設業

完成工事高

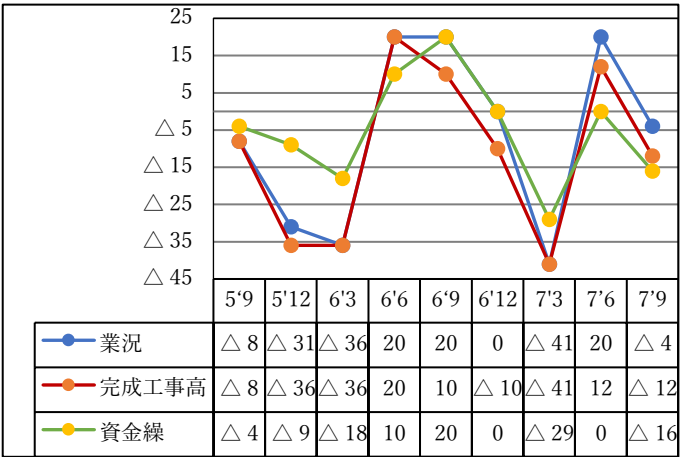
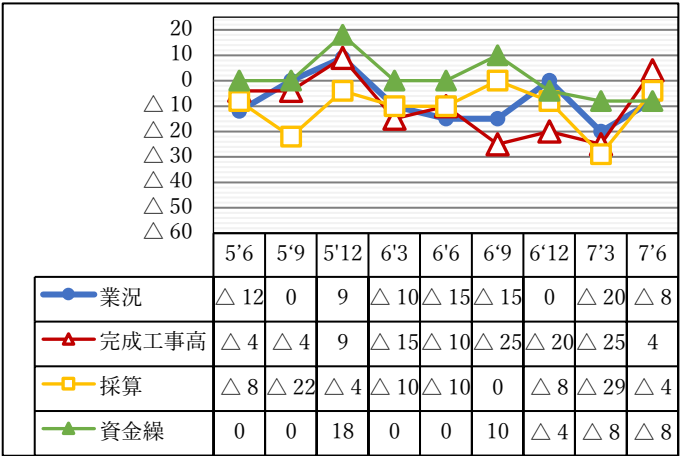
前年比で「好転企業」33.3%、「悪化企業」29.2%、D.I.値 4.1 と前年同期（△25.0）に比べ 29.1 ポイントの好転傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」16.7%、「悪化企業」20.8%、D.I.値△4.1 と前年同期（△29.1）に比べ 25.0 ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し

業況 D.I 値△4.2（前年同期 D.I 値 20.8）、完成工事高 D.I.値△12.5（同 12.5）、資金繰り△16.7（同 0.0）と前年同期に比べ、全ての見通しで悪化傾向を示しました。



2) 製造業

生産高

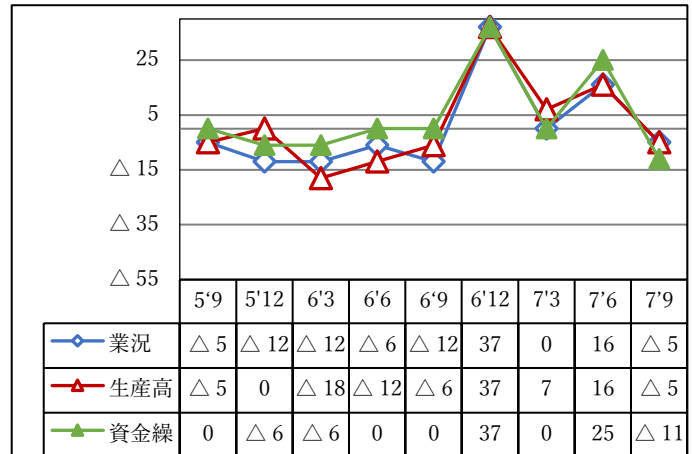
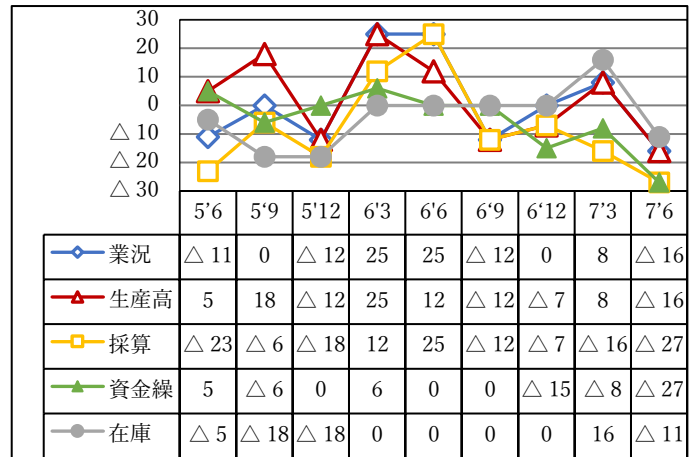
前年比で「好転企業」16.7%、「悪化企業」33.3%、D.I.値△16.6 と前年同期（8.3）に比べ 24.9 ポイントの悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」11.1%、「悪化企業」38.9%、D.I.値△27.8 と前年同期（△16.7）に比べ 11.1 ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況 D.I 値△5.6（前年同期 D.I 値 16.7）、生産高 D.I 値△5.6（同 16.7）、資金繰り△11.1（同 25.0）と前年同期に比べ、全ての見通しで悪化傾向を示しました。



3) 卸売業

売上高

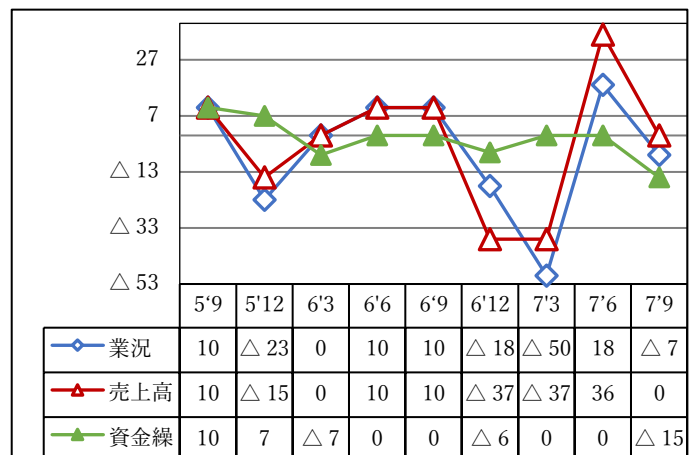
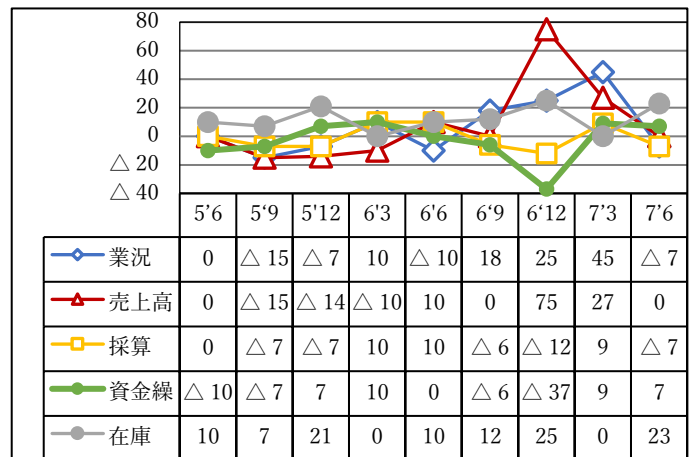
前年比で「好転企業」15.4%、「悪化企業」15.4%、D.I.値 0 と前年同期（27.3）に比べ 27.3 ポイントの悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」15.4%、「悪化企業」23.1%、D.I.値△7.7 と前年同期（9.1）に比べ 16.8 ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況 D.I 値△7.7（前年同期 D.I 値 18.2）、売上高 D.I.値 0.0（同 36.4）、資金繰り△15.4（同 0.0）と前年同期に比べ、全ての見通しで悪化傾向を示しました。



4) 小 売 業

売 上 高

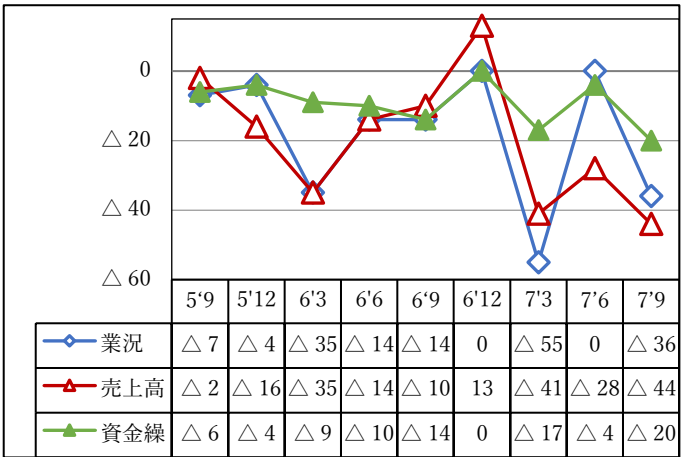
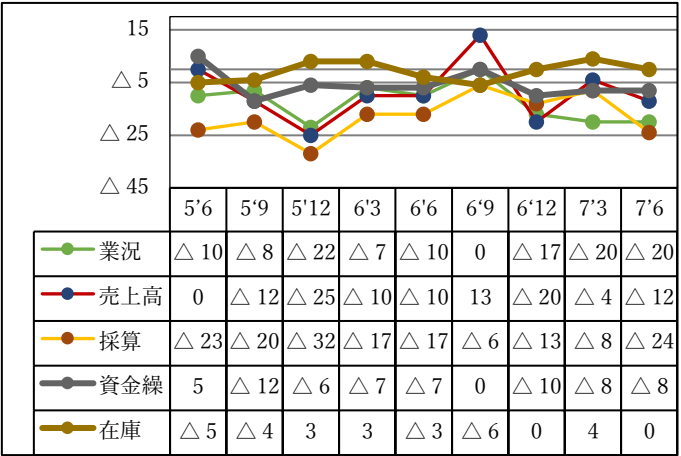
前年比で「好転企業」20.0%、「悪化企業」32.0%、D.I.値△12.0 と前年同期（△4.0）に比べ 8.0 ポイントの悪化傾向を示しました。

採 算

前年比で「好転企業」16.0%、「悪化企業」40.0%、D.I.値△24.0 と前年同期（△8.0）に比べ 16.0 ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況 D.I 値△36.0（前年同期 D.I 値 0.0）、売上高 D.I.値△44.0（同△28.0）、資金繰り△20.0（同△4.0）と前年同期に比べ、3 つの見通しで悪化傾向を示しました。



5) サービス業

売 上 高

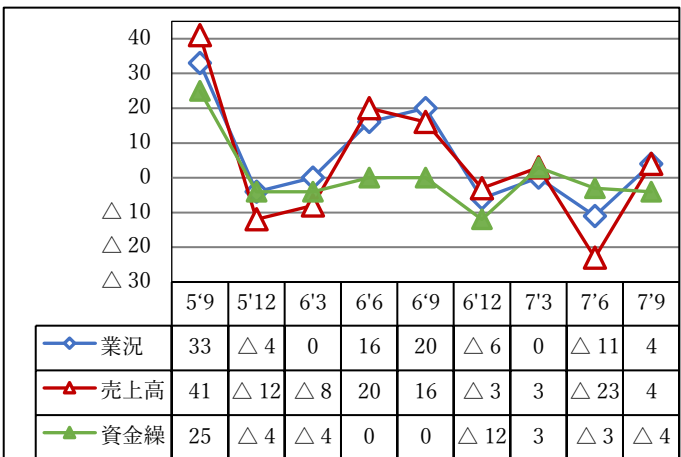
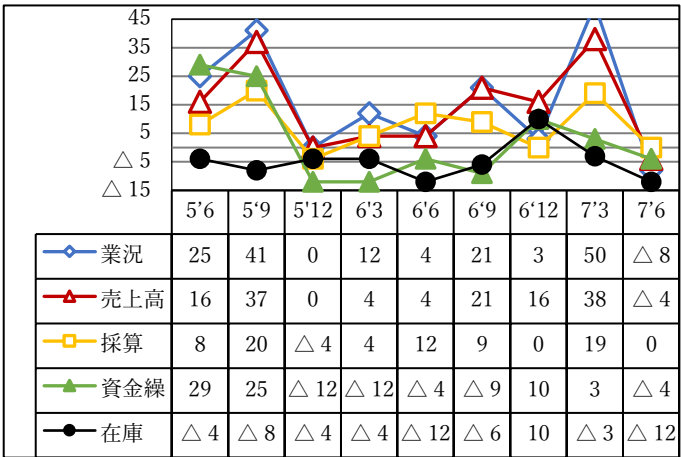
前年比で「好転企業」20.8%、「悪化企業」25.0%、D.I.値△4.2 と前年同期（38.5）に比べ、42.7 ポイントの悪化傾向を示しました。

採 算

前年比で「好転企業」25.0%、「悪化企業」25.0%、D.I.値 0.0 と前年同期（19.3）に比べ 19.3 ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況 D.I 値 4.2（前年同期 D.I 値△11.0）、売上高 D.I.値 4.2（同△23.1）、資金繰り△4.2（同△3.8）と前年同期に比べ、2 つの指標で好転傾向を示しました。



第3章 業種別設備投資の状況

今期の設備投資の有無と設備内容について調査し、業種別に統計しました。

設備投資の有無は表1のとおり、設備内容は表2のとおりです。

表1 業種別設備投資の動向

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
実施した	2 件	5 件	3 件	4 件	6 件	20 件
実施していない	22 件	13 件	10 件	21 件	18 件	84 件
合 計	24 件	18 件	13 件	25 件	24 件	104 件

表2 業種別設備投資の内容

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
土 地	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
店 舗	0 件	0 件	1 件	1 件	2 件	4 件
販売設備	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
車両運搬具	1 件	2 件	2 件	1 件	2 件	8 件
付帯設備	0 件	5 件	1 件	1 件	1 件	8 件
OA機器	0 件	0 件	0 件	2 件	1 件	3 件
福利厚生施設	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件	2 件
そ の 他	1 件	0 件	0 件	0 件	2 件	3 件
合 計	3 件	7 件	4 件	5 件	9 件	28 件

※複数回答あり

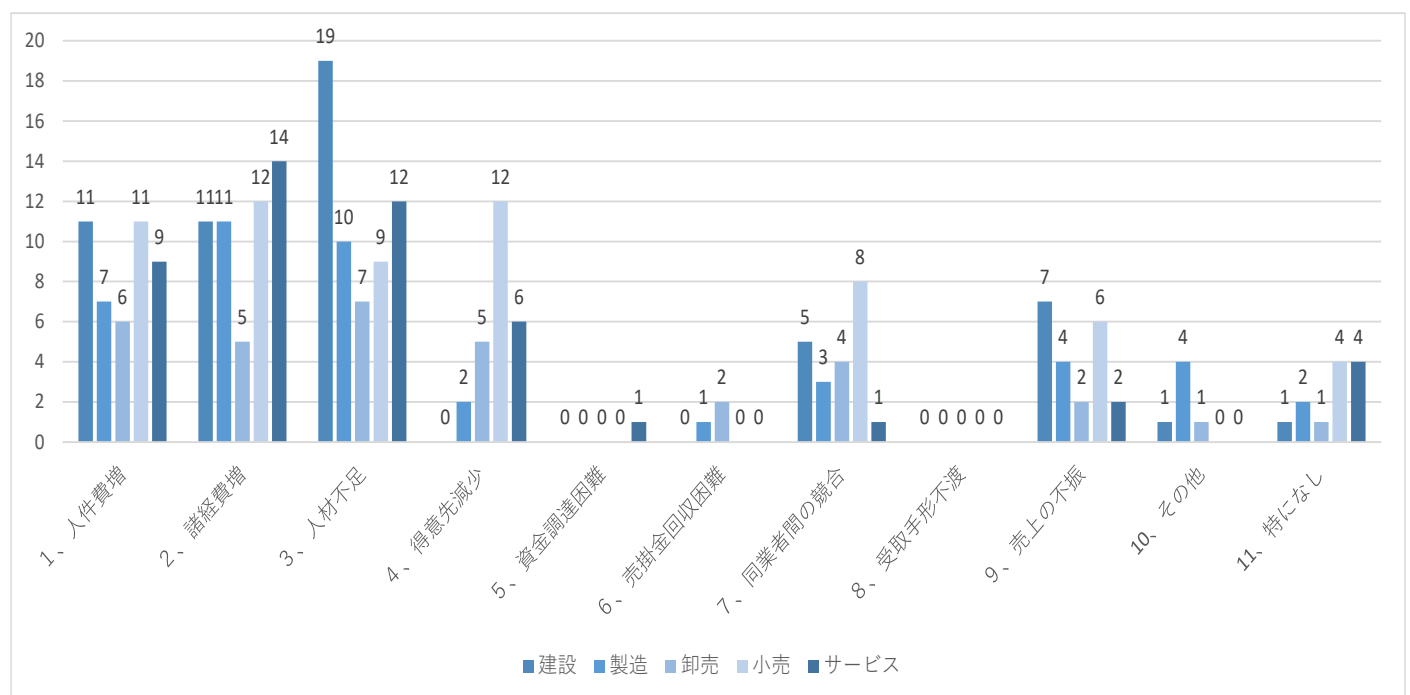
○全業種でみると設備投資を実施したのが20件、実施していないが84件となりました。前回は設備投資を実施したのが17件、実施していないが81件でありました。また、設備内容として最も多かったのは車両運搬具、付帯設備となっています。前回は車両運搬具が最も多く、付帯設備が2番目に多く占めていました。そしてその他の内容としては測量機器、ソフトウェア、建物の耐震工事がありました。

第4章 業種別経営上の問題点

表1 業種別上位

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
建設業	人材不足	人件費増 諸経費増	—	売上の不振	同業者間の競合
製造業	諸経費増	人材不足	人件費増	売上の不振	同業者間の競合
卸売業	人材不足	人件費増	諸経費増 得意先減少	—	同業者間の競合
小売業	諸経費増 得意先減少	—	人件費増	人材不足	同業者間の競合
サービス業	諸経費増	人材不足	人件費増	得意先減少	売上の不振
全業種	人材不足	諸経費増	人件費増	得意先減少	同業者間の競合 売上の不振

グラフ1 業種別件数



※複数回答あり

○全業種でみると最も多かったのは「人材不足」でした。また、業種別でみると、全業種で「諸経費増」、「人材不足」、「人件費増」が多く占めており、ほとんどの業種で「諸経費増」、「人材不足」、「人件費増」が多く占めました。

第5章 業界の景気動向等その他のご意見

○業界の問題点について

【建設業】

- ・技術を習得したいと思う人が少なくなっている。
- ・人手不足である。
- ・市役所電気設備工事が完成し今年は売上減少します。
- ・相変わらず、人材不足で困っている。
- ・工事発注は順調にきているが、今後、秋から冬にかけて工事量が減ってしまう心配がある。

【製造業】

- ・観光客が減って、売上も落ちている。
- ・非参入障壁。
- ・人員不足と人件費の増加。今後は業務のアウトソーシングを行い、得意事業を伸ばしていく予定。
- ・工場設備の老朽化による更新費用の増大。
- ・原材料の値上がりが続いている。値上げした商品は売上が停滞気味になっている。

【卸売業】

- ・人員不足である。
- ・諸経費が増加している。

【小売業】

- ・食品等の値上げに負けてます。
- ・人材不足及び人材の確保。
- ・人口減少による人材減少と顧客減少。
- ・タイヤ・アルミホイール等の値上によりお客様の買い控えがいちじるしいです。
- ・インバウンド客の増加はある。国内・道内客の消費額減少はさけられず。
- ・諸経費増・人材不足・得意先減少。

【サービス業】

- ・業界全体の課題として、技術職員の高齢化もあり、人材の確保・技術継承 について、当該業種・地域性の魅力を発信し、若手技術者の確保につなげることが必要です。求人活動につきましては、昨年からの求人活動強化（企業説明会への参加・民間求人媒体の利用等）の効果が表れ、インターンシップの受入数が増えており、来年度以降の新卒者応募に期待をしております。
- ・繁忙期の人材不足、地元網走で対応できず北見市から派遣されてくるので、交通費人件費が通常の2倍かかることです。
- ・クリーニングを利用する年齢層が少なく、労働者の服装もカジュアルもしくは自宅に対応できるものが増えてきている。（シワがつきにくい、ワイシャツスーツ離れ）利用者減少とともに物価高騰による料金改定で客足が遠くなっていることが1番の課題と考える。
- ・仕入の高騰。
- ・人材不足が深刻化している。営業時間、実質稼働時間の短縮等。